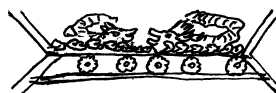


シリーズ 阿久比を歩く⑤



観音寺本堂

平泉寺の表門から下った所にある唐松の井戸（慈覚大師円仁の祈とうにより水が湧き出し、農民を日照りから助けたと伝えられる井戸）をのぞき、角前田の交差点を渡り、西に向かつて第十七番札所、高岡地区の観音寺を目指した。

県道は車の通りが多い。交通安全に気を付けながら歩を進めると、弘法寺を示すのぼりが見えた。矢印に沿って細道に入った。間もなく見上げるような石段が目前に現れた。

小高い丘の上に観音寺はある。石段を一段一段と登り始めた。半分くらいまで登った所で、ふと「何段あるのだからか」と思い、もう一度下に戻って数えることにした。かなり険しい急な石段で、運動不足の私たちにはつらい。「はあー、はあー」息が切れた。七十四段あった。

登りきった場所から、後ろを振り返って見る。目の前に植大地区の住宅や田園風景が広がる。

一礼して境内に足を踏み入れる。今まで巡った中では一番小さな寺に

知多四国八十八カ所弘法参り

あ

ぐ

い

ぶ

ら

り

旅



朱印をする副住職

感じられ、正面に本堂がひっそりと建っていた。幼い子どもが二人、堂の前で手を合わせて何か願い事をしている。とてもほほえましい光景が目についた。

あいにく住職は留守だったが奉納経に朱印を押ししてもらい、話を聞いた。この寺の住職は、知多四国で三人しかいない女性の内の一人だそうです。せっかくの機会だったのに会えなかったのがとても残念。

寺の中を見せてもらった。欄間に金箔が施された立派な彫刻がある。今にも飛び出してきそうな、躍動感あふれる「竜」の彫り物。山車の彫刻で知られる「彫常」の作品だそう。山車の彫刻は一年に一度しか見えますが、ここに来てもらえば毎日見えますよ」と副住職。